

事業者行動計画書 ~~（変更計画書）~~

2020年 7月16日

（宛先）

滋賀県知事

提出者

住所 （法人にあっては、主たる事務所の所在地）

滋賀県大津市晴嵐二丁目7番1号

氏名 （法人にあっては、名称および代表者の氏名）

日本電気硝子株式会社

代表取締役社長 社長執行役員 松本 元春

（代理人）常務執行役員大津事業場長 岸本 暁

滋賀県低炭素社会づくりの推進に関する条例 ~~（第20条第3項・第20条第4項・第22条第1項・第22条第2項において準用する同条例第20条第4項）~~ の規定に基づき、事業者行動計画を 策定 ~~（変更）~~ したので、提出します。

事業者の氏名 （法人にあっては、名称 および代表者の氏名）	日本電気硝子株式会社 代表取締役社長 社長執行役員 松本 元春
事業者の住所 （法人にあっては、主たる 事務所の所在地）	滋賀県大津市晴嵐二丁目7番1号

1 事業所の概要

事業所の名称	日本電気硝子株式会社 大津事業場		
事業所の所在地	滋賀県大津市晴嵐二丁目7番1号		
主たる事業	細分類番号	2 1 1 9	その他のガラス・同製品製造業
該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロワット以上の事業所を 県内に有する事業者		
	<input type="checkbox"/> 従業員数が21人以上であって、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室 効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を 県内に有する事業者		
	<input type="checkbox"/> 任意提出事業者		

2 計画の内容

計画の内容	別添のとおり
-------	--------

注 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とします。

1 計画期間

計 画 期 間	2020 年度	～	2022 年度
---------	---------	---	---------

2 低炭素社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

私たち日本電気硝子株式会社は以下に示す運営方針と環境憲章に基づき、低炭素社会づくりの推進に取り組んでいきます。

運 営 方 針

「世界一の顧客満足」
 「世界一の競争力」
 自らが変化し、スピードをあげて、世界一を達成しよう

環 境 憲 章

[環 境 理 念]

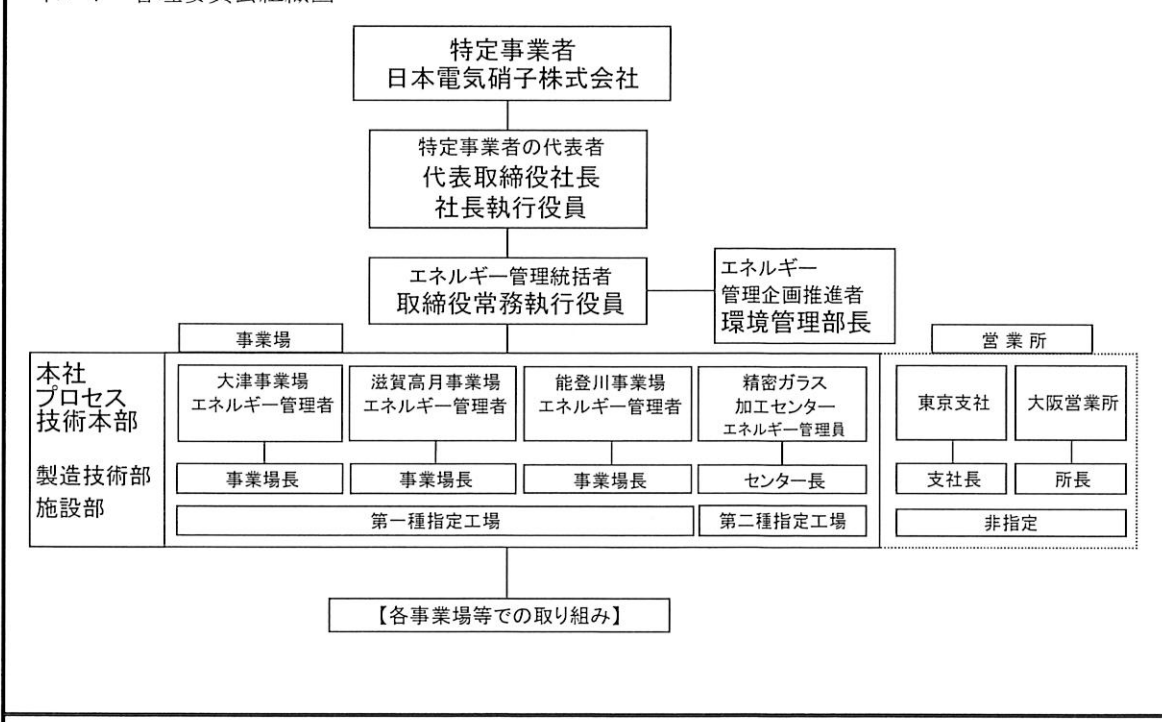
地球環境の保全は、21世紀において、文明と人類の繁栄に不可欠の最重要課題です。日本電気硝子は『ガラスの持つ無限の可能性を引き出し、モノづくりを通して、豊かな未来を切り拓く』という企業理念のもと、「自然との共生」を1つの大切な価値観と掲げ、最先端の技術開発、最高水準の品質、高効率の生産、潤沢な製品供給を実践することで、世界一の特殊ガラスメーカーを目指しています。日本電気硝子はグループ各社とともに効率が良く、環境負荷が少ないプロセスを実践することで、地球環境の保全と循環型社会の実現に寄与します。

[行 動 指 針]

1. 関連する環境法規制ならびに当社が同意した協定等を遵守するにとどまらず、適切な自主規制を定めこれを実行することに努めます。
2. 調達から、製造、物流、販売、使用、再生、廃棄に至る、製品のライフサイクルの各段階および企業活動の各場面にわたって、環境負荷を低減することに努めます。
3. 世界一のモノづくりを実現することで、天然資源やエネルギーを有効活用し、生物多様性の保全と地球温暖化ガスの排出削減に努めます。
4. 21世紀に求められる汚染の予防への適応に努力し、社会との共生を目指します。
5. 環境目標を設定し、本来業務の推進および全員参加の環境保全活動により、その達成を目指します。そして、環境パフォーマンスを向上させるため環境マネジメントシステムを継続的に改善します。なお、当憲章は文書化し、組織内の従業員ならびに関係会社に伝達し、組織外からの要求に応じて開示します。

3 低炭素社会づくりに係る取組に関する推進体制

エネルギー管理委員会組織図



備考 組織図を記載し、役割分担および責任者の役職を記入してください。

(第2面)

4 これまでに取り組んできた低炭素社会づくりに係る取組

- ガラス溶融炉の燃焼を空気燃焼方式から酸素燃焼方式に転換してきています。1993年に日本で初めて酸素燃焼方式を導入し、空気燃焼炉に比べて、生産重量あたりのCO2排出量を約2割削減してきました。
- ガラス溶融炉に使用する燃料を重油やLPGからよりCO2排出量の少ない都市ガスに転換してきています。
- ガラス溶融に使用する総エネルギーに対してより熱伝導効率の高い電力による溶融の割合を増やしてきています。
- 2000年より順次取り組み、現在では、「廃棄物」「水」「ガラス溶融炉からの揮発成分」の削減に取り組んできています。これらの環境指標を原単位で管理し、削減目標達成をめざして、生産効率を上げることがCO2排出量削減に大いにつながるとの考えから、各事業場で継続して取り組んでいます。
- 事業場内 外灯にLEDタイプを採用してきました。
- 事業場建屋内の照明を2灯式から1灯式に変更し、省エネを進めてきました。
- 事務所等の空調温度管理を徹底してきました。
- 不必要な照明は消灯させるように徹底してきました。
- パソコンに自動スタンバイを設定してきました。
- 事業場内高圧空気の空気漏れ箇所の点検と、空気漏れ防止対策を進めてきました。
- パソコンの照度をエコモードに変更しました。
- 溶融炉上部の熱を、濡れた不良ガラスの乾燥に有効活用しました。
- 電気炉の不使用时における低温保持や温度の見直しを徹底してきました。
- 使用頻度の少ない測定機器の電源オフを徹底してきました。
- 工事用仮設電源にエンジン発電機を採用してきました。
- 自社焼却炉を廃止し、可燃物(紙類、廃プラ類)のリサイクルを推進してきました。
- 事業場における水使用量並びに廃水を削減してきました。(ポンプ運転時間の短縮, 廃水処理プラントの休止)
- 社用車として軽自動車、またハイブリッドカーを導入してきました。
- 溶融炉の天井や底部に対し保温を強化させ、省エネを進めてきました。
- 空気燃焼設備に酸素を富化することにより、燃料(都市ガス)削減を進めてきました。
- 省エネタイプのフロアやモーターへの置換を進めました。
- 事業場の老朽化した変圧器を最新式の省エネ型変圧器へ更新した。

(第3面)

5 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO₂排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	取組の内容	実施スケジュール
1	プロセス改善対策	硝子溶融炉における酸素添加による省エネ	2020年4月～2020年12月
2	運用改善対策	製品硝子ロス低減による歩留まり向上	2020年4月～2020年12月
3	運用改善対策	製品硝子流量アップによる稼働期間短縮	2020年4月～2020年12月
4	プロセス改善対策	ボイラー更新による省エネ	2020年4月～2020年12月
5	プロセス改善対策	各変電所の変圧器効率改善による電力使用量削減	2020年4月～2020年12月
6	プロセス改善対策	事業場 コンプレッサー更新による省エネ	2020年4月～2020年12月
7	運用改善対策	ドライルームでの湿温管理改善による省エネ	2020年4月～2020年12月
8	プロセス改善対策	事業場 厚生棟空調設備改善による省エネ	2020年4月～2020年12月
9	プロセス改善対策	照明LED化による省エネ	2020年4月～2020年12月
10	プロセス改善対策	硝子溶融技術開発による省エネ	2020年4月～2020年12月
11	プロセス改善対策	硝子溶融炉において炉構造を改善し放熱量を削減し、また、硝子流量を増やし稼働期間の短縮を図ることによる省エネ	2020年4月～2020年12月
12	プロセス改善対策	インゴット成形における溶融材料の歩留りを向上し、稼働期間の短縮を図ることによる省エネ	2020年4月～2020年12月

(2) エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	取組の内容	実施スケジュール
1			
2			
3			

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

上記の取組等により、2016年度を基準年度とし、以下の数値目標の達成を目指します。

$$\text{原単位} = \frac{\text{温室効果ガス排出量(ton)}}{\text{ガラス流量(ton)}} \quad \text{で毎年1\%削減}$$

なお、原単位の考え方は次の通りです。
 温室効果ガス排出量は、エネルギー使用量に比例します。
 そのエネルギー使用量はガラス溶融炉で溶かす量(ガラス流量)と密接な関係を持ちます。
 このことから、原単位計算の分母をガラス流量とし計算された原単位を目標とすることとしました。

◆2016年度(基準年度) 原単位実績 : 1.7327 (tCO₂/ton)

(第4面)

6 事業活動を通じた他者の温室効果ガスの排出削減により低炭素社会づくりに貢献する取組

(1) 取組の内容等

○エネルギー削減に効果のある製品を製造しています。

①ガラス製魔法瓶用ガラスを製造しています。

②IHクッキングヒーター用ガラスを製造しています。

(2) 上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

①ガラス製の魔法瓶は保温機能が高く、熱湯または冷水を入れることで新たなエネルギーを使用しなくてもその温度を長時間にわたり保持することが出来ます。この低炭素社会づくりに一役買う製品です。

②IHクッキングヒーターはその熱量のほとんど全てを調理器具に伝えることができ、効率的にエネルギーを使用することが出来る製品です。

7 その他の低炭素社会づくりに向けた取組

	取組項目	取組の内容および当該取組により達成しようとする目標	実施スケジュール
1	廃棄物・水の削減	ガラス事業固有の固形廃棄物は社内再利用を徹底することを基本にリサイクルに着目し、製品販売重量に対する中間処理及び埋立処分される固形廃棄物の比率を指標に削減に取り組んでいます。 また、貴重な資源であり、モノ作りのレベルは水の使用量に表れるという考えから、製品販売重量に対する水の量の比率を指標に削減に取り組んでいます。	継続して実施
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			